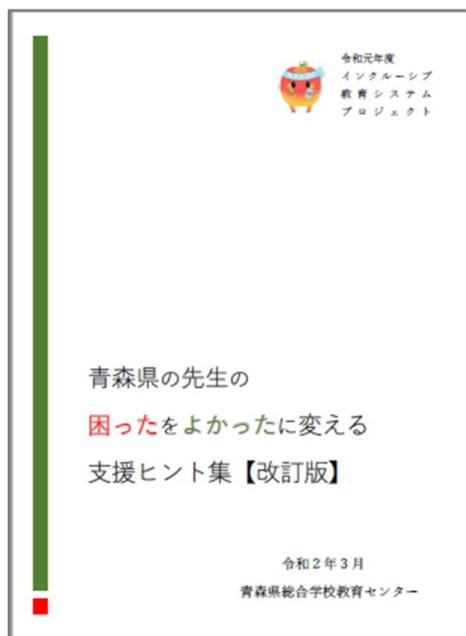


組織的支援につなげよう

事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

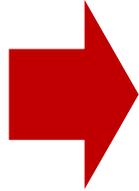


支援ヒント集を
用意してください♪

特別支援教育とは

困った生徒

困っている生徒

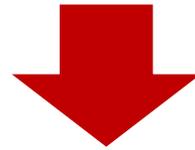


先生方が「困った」と感じている「気になる生徒」は、先生方を「困らせたい」と思っているわけではないのです。誰よりも「困っている」のは本人たちです。

通常の学級における特別支援教育とは、決して「特別な」教育なのではありません。目の前にいる一人一人の子供の「もっと学びたい」思いを見つめ、一人一人の教育的ニーズにこたえる教育です。

高等学校における課題

課題：組織的な支援にまで至らず、教員が一人で抱えがちである。



自己の経験から実践して良かったことや課題等について教員間で話し合い、生徒一人一人のニーズに応じた組織的な支援につなげたい。

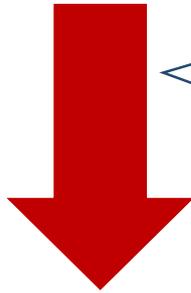
研修の目的

- 教員の経験則に基づき対応してきた特別支援教育に係る課題を、支援ヒント集を利活用しながら学校全体で共有し、教員間の協働を通して解決に取り組む機会を設ける。
- 既存の諸会議を利用し、組織的な支援につなげる。

研修の流れ

◆ステップ 1

教科会議・学年会議での演習・協議



必要に応じて！

- ・ 早急に組織的な対応が必要な生徒への支援方法を協議した場合
- ・ 研修成果を全校に広げたい場合 など

◆ステップ 2

成績会議等の学年（科）拡大会議での共有

◆ステップ 3

職員会議における校内共通の取組への展開

ステップ1

教科会議・学年会議での 演習・協議

事例 「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

協議の流れ

1. 研修の説明
2. KPTシートを用いた演習・協議
 - ・付箋に記入、貼付
 - ・グループ協議
3. まとめ
 - ・振り返り
 - ・情報提供



KPT法とは

◆前向きで段階的な振り返りの手法

Keep : 良かったこと・継続したいこと

Problem : 課題となっていること・やめること

Try : 課題の解決策・今後挑戦すること

★ポイント : **K**から考え始める

Pだけにフォーカスしない

KPT法の手順

課題(テーマ) : 課題の提出期限を守れない生徒について	
Keep (効果があったと感じたこと・継続したいこと)	Try (今後実践したいこと)
Problem (課題・問題点)	

【手順】

①個人の思考、付箋記入

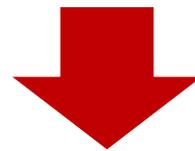
※付箋の色は担当者
毎に変えてもよい

②付箋の貼付

③協議

共有と振り返り

- 対応における共通点や相違点を教科内等で確認する。
- 先輩教員の過去の事例を共有する時間を設け、現状の改善につながる方策を探る。



振り返り

新たな発想や視点は見つかりましたか？

支援ヒント集を確認してみましょう

P.27～ 事例「課題の提出期限が守れないDさん」

保護者との
連携は？

個への支援は？

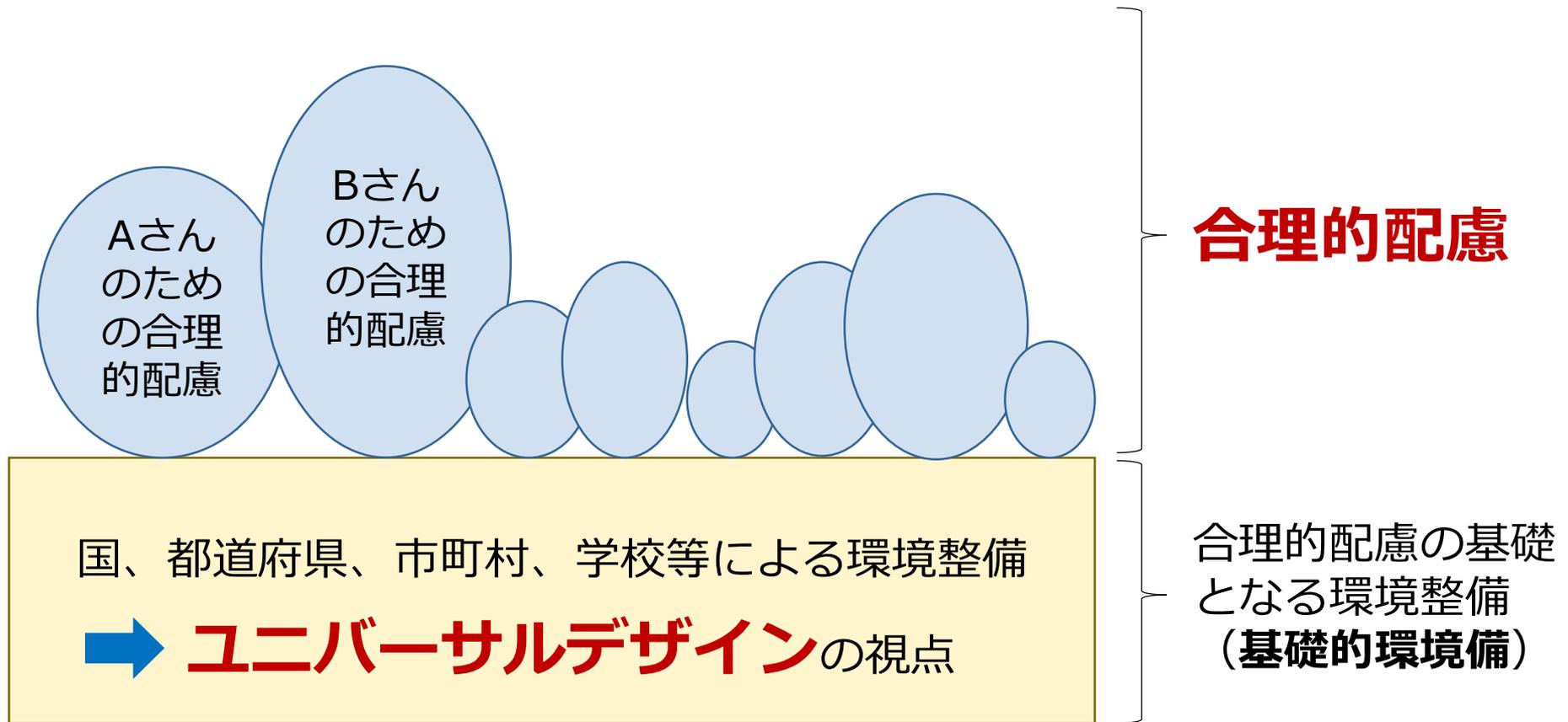
他機関連携は？

校内支援
体制は？



環境設定は？

合理的配慮と基礎的整備の関係



授業のユニバーサルデザイン化のイメージ

授業のユニバーサルデザイン化



通常の集団指導で学習可能（障害のない生徒）



集団指導の工夫が必要



手厚い支援が必要

あると便利

ないと困る

ないと困る

個に特化した支援（合理的配慮）

各教科の学習内容

学級づくり、環境整備の工夫

- 理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がなく、お互いにサポートし合うようなクラスづくりがなされている
- 学習の約束事（休み時間の中に次時の授業の準備等）を決めている
- 集中を妨げる可能性のある音や目に入る物などを調整している
- 黒板やまわりの掲示は、余計な情報（授業に関係のない情報）がない状態になっている
- 共有で使う物の置き方や場所が決まっている
- 授業の流れや活動の手順を提示するなど、見通しがもてる工夫をしている

授業づくりの工夫①

- 本時のねらいや活動を絞り、生徒にしっかりと伝えている
- 注目することを促してから指示を出している
- 1回の指示で一つの内容を伝えている
- 「これ」「それ」「あれ」「どれ」等の抽象的な表現を避け、具体的に指示している
- 授業の最後に1時間で学習した内容を整理し確認している
- 生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」等の肯定的な言葉をかけている
- 絵や図等の視覚的な手がかりを用意している
- 板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置等を工夫している

授業づくりの工夫②

- 言葉だけの説明ではなく、図示する、演じる等の方法を用いて、理解を促す工夫をしている
- ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている
- 達成までのプロセスに細やかな段階がある
- ペア学習やグループ学習等の活動を取り入れ、学び合う機会を設けている
- 教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている
- 学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている

高校学校における合理的配慮

- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（講義動画）

➤ 高等学校における発達障害のある生徒の指導・支援

http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/e76d1fb9f74620ff31797a9813a6c1d5?frame_id=4735



➤ 高等学校における合理的配慮

http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/6348986fc3e4f90bae53d12fa608a16a?frame_id=4735



- 大分県教育委員会「大分県公立高等学校における合理的配慮の提供」
(リーフレット) <https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2017138.pdf>



「問題対応型」から

生徒の実態や学校・ホームルームの実情

に応じた「**組織的支援**」へ



ステップ2

拡大学年会議での共有

事例 「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

情報共有の流れ

1. 各教科及び学年の代表者による発表

- ・ステップ1でのK、Tを中心に発表

2. 共有した情報の分析・整理

- ・共通点⇒学年で着手しやすい支援策
相違点⇒共通理解を図る必要がある事項
- ・学年全体として共通して実施できる支援策を整理

3. まとめ

- ・振り返り、情報提供



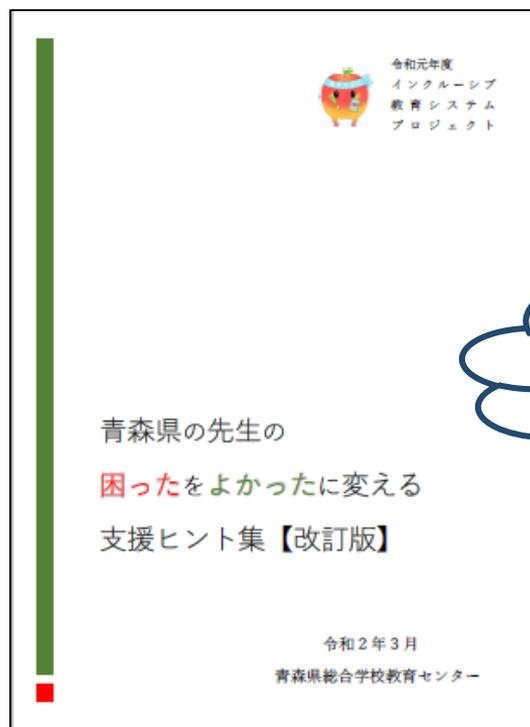
【情報提供】 支援ヒント集の紹介

(例えば、こんな事例が掲載されています)

「課題の提出期限が守れないDさん」への支援

保護者との
連携は?

校内支援
体制は?



個への支援は?

他機関連携は?

環境設定は?

支援ヒント集を活用して、**組織的・計画的・継続的な支援**を目指しましょう

ステップ3

職員会議における校内共通の 取組への展開

事例 「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

1. 各学年の代表者による発表

- ・ステップ2での「学年全体として共通して実施できる支援策」を中心に発表

2. 質疑応答

3. 省察（個人）

- ・特別な配慮が必要な生徒への支援について新たに気付いたことや考えたこと
- ・特別支援教育の推進に向けて、個人及び組織として、今後取り組むべきこと など



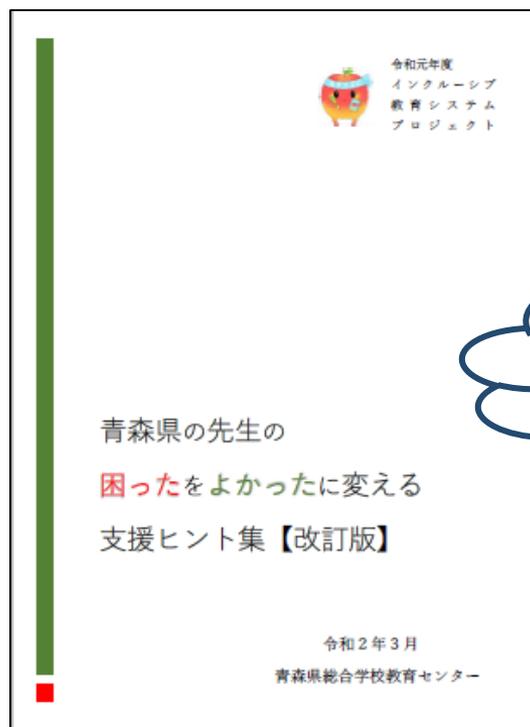
【情報提供】 支援ヒント集の紹介

(例えば、こんな事例が掲載されています)

「課題の提出期限が守れないDさん」への支援

保護者との
連携は?

校内支援
体制は?



個への支援は?

他機関連携は?

環境設定は?

支援ヒント集を活用して、**組織的・計画的・継続的な支援**を目指しましょう